



令和5年度
地域まちづくり活動助成金
活動成果概要



令和6年6月
東大阪市 市民生活部
地域活動支援室

目次

『地域まちづくり活動助成金』の概要	1
交 付 事 業 一 覧	2
活 動 成 果 概 要	3-36

『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

スタート支援部門	立ち上げて5年未満の団体が、活動基盤を整えたり、新たな事業を始めたりするのを支援する助成金。
事業チャレンジ部門	団体が、将来に亘って自立・継続して活動するための事業への助成金。

○選考方法

スタート支援部門	書類と面接
事業チャレンジ部門	書類と公開プレゼンテーション

いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において採択団体や助成金額などを審査します。

○審査基準

- ・事業の公益性 ・事業の実現性 ・事業の創意工夫・先駆性
- ・事業の発展性 ・組織の健全性 ・他団体、企業、行政機関などの協働性

令和5年度東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員

令和5年度は、下記の審査委員により審査を行いました。

	氏名	選出団体及び役職
会長	吉田 忠彦	近畿大学 経営学部 教授
副会長	有田 典代	国際文化交流協会 事務局長
	田中 晃代	近畿大学 総合社会学部 教授
	藤江 徹	あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）事務局長
	太田 恭子	東大阪市 市民生活部 地域活動支援室長

令和5年度 交付事業一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ番号
1	スタート支援	やどり木	孤育てを防ぐために0歳～15歳までの子育てを繋ぐ	3
2	スタート支援	特定非営利活動法人音頭座がらく	新しい形の祭り・盆踊りイベント提案プロジェクト～地域交流機会の創出と活性化～	5
3	スタート支援	～ほ～むべ～す～	子育てと教育について考える、映画上映会	7
4	スタート支援	東大阪ペタンククラブ	ペタンク&フランス文化体験会 ～健康促進と多様性のコミュニティづくり、フランス言語・文化と触れ合い世界の多様性を学ぶ～	9
5	スタート支援	東大阪「通いの場」連絡会	東大阪市内の各種「通いの場」ネットワークづくり事業	11
6	スタート支援	ダブルケア東大阪	ダブルケア当事者の居場所づくり事業	13
7	スタート支援	特定非営利活動法人フリースペースかんの	～学校に行きにくい児童生徒へいろいろな機会を与える～ はじめの一歩！	15
8	スタート支援	EN	地域全員顔見知り(ご縁づくり)事業	17
9	スタート支援	ちいさなて	子どもの夢を咲かせるバクプロジェクト	19
10	スタート支援	ひのもと	みんなで考える「食」と「お金」	21
11	スタート支援	よりみち	なんでもはなしてみよう会	23
12	スタート支援	東大阪市障害者文化スポーツ大会	東大阪市障害者文化スポーツ大会	25
13	スタート支援	弥刀もりあげ隊	トライアルしやすい商店街プロジェクト	27
14	事業チャレンジ	社会資源開発研究会	高次脳機能障害や若年性認知症の地域理解と当事者・家族の交流と社会参加促進事業	29
15	事業チャレンジ	NPO法人リード	ラグビーのまちでラグビーを「やってみる&やろう！」イベント	31
16	事業チャレンジ	特定非営利活動法人多言語・多文化サポートICHI	誰もが活躍できる多文化社会の実現に向けて	33
17	事業チャレンジ	ユメカナエフェス実行委員会	ユメカナエフェス2023	35

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	孤育てを防ぐために0歳～15歳までの子育てを繋ぐ		
団体名	やどり木		
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000	総事業費	359,100

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>コロナ渦を経験し、様々な暮らしが以前に戻りつつある中で、まだまだ閉鎖的な子育ては続いています。そのため、少しでも安心して子育てができるような場づくりや、育児の情報の提供、地域に信頼できる顔見知りを増やし、子どもも親も安心できる街づくりを目指しています。また、長期休みに子どもたちが異年齢交流できる場として、学生スタッフや地域の方とともに、“こどもの居場所”を構築していきたいです</p>					
2. 事業の内容	<p>未就学児親子や保護者との交流会、育児講座、イベントは継続し、小中学生の居場所作りの活動を増やします。夏休みや冬休み等に、子どもたちが安心安全で異年齢と遊べる場所を提供し、保護者の負担となる宿題を学生ボランティアと一緒に取り組みます。託児や送迎を地域内で担えるような仕組みづくりも継続して行います。</p>					
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	①	・	2	・	3
	②実施場所はよかったか	①	・	2	・	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	・	2	・	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	・	②	・	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1	・	②	・	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	・	2	・	3
	⑦広報はよかったか	1	・	②	・	3
	⑧予算は妥当だったか	①	・	2	・	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<p>活動を総じて振り返ると、新規利用者も増え、まずまずの成果が得られたと考えられます。しかし、以前より、東大阪全体でのイベントが増え、子育て世代の活動等も増えているため、ここ3年間の活動の中で一番集客に苦労しました。しかし、少しずつ開拓することで、新しい開催場所（あさひっこや西地区など）も加わったので、引き続きコツコツと周知していきたいです。また、今年度はあえて、市民プラザ等のチラシ設置を控え、様子を見てみましたが、やはり SNS や口コミでは限界を感じたため、次年度はまた活用したいと思っています。</p>					

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>子どもの居場所づくりへの参加が予想以上に参加者が多く、大きな成果があったと言えます。</p> <p>特に、昼食付きの日はとても人気で、キャンセル待ちが出ました。逆に、昼食なしの日は参加が少なかったため、次年度は、常に昼食つきで開催を検討しています。そのためにスタッフを増員できるよう、人員の確保に努めます。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>育児講座の参加数が、思わしくありませんでした。ゆっくりと話をしたり、情報交流をするおしゃべり会の回数を減らしたことで、新規の方が半数以下であったことが原因と考えられます。リピーターが半数以上であることは嬉しいことですが、新規利用者の獲得もしっかりしていきたいと思えます。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する	<input type="checkbox"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由	
<p>長期休みに“子どもの居場所づくり”をメインの活動として開催します。保護者の負担の軽減を行うために、希望者には食育講座を開催し、お昼ご飯（給食）の調理や配膳をこどもたちも一緒に行います。また、今年度は、東地区のみに限らず、他の地区での活動を広げるために、ママスタッフの人材育成も行います。イベントスタッフからはじめ、交流会の開催を任せるなど、スモールステップを重ね人材を育てていきます。</p>	
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）	
<p>活動をより多くの人に知ってもらうために、①ふれあい祭りに参加し、子育てアイテムのリユース会「ぐるぐる会」を行います。リユース会を東大阪市に広めるとともに、活動拠点（四条市民プラザ）と異なる場所で実施することで、四条周辺地域以外の方にも活動を知ってもらい、新規参加者に繋げることも目的としています。②規模を拡大したやどり木まつりを東地区で地域と密接な石切回廊で開催します。子どもの遊びコーナーはやどり木価格（ひと家族 100 円）で実施し、ママのためのブースを新しく設けることで、収入源を確保します</p>	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	新しい形の祭り・盆踊りイベント提案プロジェクト～地域交流機会の創出と活性化～		
団体名	特定非営利活動法人音頭座がらく		
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000円	総事業費	301,613円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	現代の祭りや盆踊りは各市町村の自治会が主催することが多く、各自治会の役員等も高齢化と後継者不足が進み、また、資金（主に寄付金）調達の問題で祭りや盆踊りの開催を断念するところが増えており、地域での人々の交流の場が無くなり伝統文化の衰退が危惧されております。そこで、各自治会の負担の少ない盆踊り提案を行い、地域住民の交流を深める機会の維持・拡大を目指し、地域社会の活性化の一助を担うことを目的とする。			
2. 事業の内容	祭りや盆踊り、各種イベントの企画・構成・施行に関する意見交換会やインターネットによる情報発信を実施すると共に、河内音頭の練習生・研修生の募集と講習会を重ねて次代の担い手となる住民の参加機会を作る。 また、地域住民の世代構成に合せた企画と会場準備・設営から運営までをパッケージ化し、その「新しい形の盆踊り提案」イベント開催を行い、インターネットでも中継することにより、来場者以外にも広く訴求する。			
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑦広報はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	<ul style="list-style-type: none"> ・河内音頭講習会では昨年度から参加されたメンバー4名が初舞台を経験し引続き活動中であり、更に若い世代の参加が望まれる。 ・新しい形の盆踊り提案イベントでは、障害のあるこどもやその家族にも企画段階から携わり参加・出演するモデルケースとして具体例訴求ができ、世代やジャンルをこえた演者と来場者が楽しめる空間と時間の共有を実現できた。 ・予算面はほぼ当初の計画通り執行する事ができたが、今後の継続的な事業展開を前提に収支バランスの適正化が課題である。 			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>社会が支えるべき子どもたちが気軽に参加できるように、障害のある子どもやその家族に企画段階から携わっていただくための意見交換会で、イベント出演に対する不安や躊躇（当日の体調や精神面の不安定による他の演者への影響を心配するが故の遠慮等）を払拭させるための準備や対策を事前に講じることにより、同じ境遇の子どもと家族の来場者も多く、イベント会場定員を超える予約申込みがあった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>河内音頭講習会や新しい形の盆踊り提案イベント「”新春”音頭座がらく音楽祭 in 東大阪」については、早い段階からイベント内容及び出演者を確定することができ、チラシやポスター、ホームページ、各種 SNS と併せてインターネットラジオ番組で告知・PR することで会場定員を超える予約申込みにつながったと思われる。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続
<input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する ・ <input type="checkbox"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由
<p>次年度は【新しい形の祭り・盆踊り提案プロジェクト～地域交流機会の創出と活性化～】事業のまとめとして、幅広いジャンルの音楽とともに、日本各地の郷土芸能や民謡が一堂に会するイベントの企画・設営・運営までをパッケージ化した提案を行い、各地域での開催に繋げて地域住民の交流を深める機会の維持・拡大を目指す。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）
<p>河内音頭をはじめとする伝統芸能・文化の伝承と活性化を目的とした練習生・研修生を広く募集し、河内音頭講習会を重ね、またその状況をホームページや各種 SNS、インターネットラジオ番組をはじめとする各種メディアで発信することで参加メンバーを増やすと共に、各種イベント開催・出演で事業収入の増加を図る。</p> <p>また、賛助会員や協力・協賛していただく個人・団体・企業を増やし、イベント協賛や各種チラシ・ポスターへの協賛を積極的に募り、財政基盤の自立を図る。</p>

※ 5～9 を 1 枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子育てと教育について考える、映画上映会		
団体名	～ほ～むべ～す～		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000 円	総事業費	314,440 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	本来、子どものためであるはずの教育や学校が、「一斉授業」の名の下に決められたルールに子どもを従わせるものとなってしまっていると感じています。ひとりひとりの良さ・個性を尊重するためには関わる大人たちがどう接すればいいかを考え、実践する機会を作ることが大事だと考えました。			
2. 事業の内容	児童・生徒ひとりひとりの個性を大切にしている学校を舞台にしたドキュメンタリー映画の上映会を2回開催いたしました。 7月には「夢見る小学校」、12月には「みんなの学校」の上映を行い、多くの方に見に来ていただくことができました。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	①	2	3
	⑧予算は妥当だったか	①	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	初めての企画ではありましたが、日頃交流している地域や学校関係者の方々が足を運んでくださり、予想を超える人数の方に見ていただくことができました。協賛企業さんのご協力もあり、世代や子育てという枠を超えて社会的に教育について考える良い機会にもなりました。広報ではSNSを活用し、ポスターの掲示、市政だよりへの掲載。事前準備から当日まで、地域活動支援室担当の方、運営スタッフと連携し計画通りに進行することが出来ました。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>予定より多くの方に映画を見ていただくことができました。事後に回収したアンケート用紙には、それぞれの思いの丈が綴られており、今後のご自身の活動に繋げていきたいなど、広がりを感じさせる成果が得られたと、思わぬ好感触も得たと感じています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>同じような気持ちを持っておられる方が多かったのだと気付かされました。上映時間内にお子さんの保育をしたり、足を運んでいただきやすい時間帯にしたことも、たくさんの方にお越しいただけた要因だと思います。</p> <p>関係各所、飛び込みなどの広報活動も、功を奏したと考えています。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

前回の経験を活かし、より多くの方に足を運んでいただけるよう工夫に努めます。

有り難いことに既に上映会開催のご要望の声もあり、より充実した時間となるよう上映会後の交流会を設けるなどし、映画の感想のみならず、その後の生活の中での変化や取り組みなど、具体的な変化を共有し意識を高め合える場所、機会にしていく所存です。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

協賛企業様1社からご協力いただいているので、さらにこれから活動に賛同してくださる個人様企業様が増えるような動きをしていきたいです。

また、12月開催時には受付にお気持ち箱として、活動に対する募金箱を置かせていただきました。ありがたいことに複数の方々から応援いただきました。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ペタンク&フランス文化体験会 ～健康促進と多様性のコミュニティづくり、フランス言語・文化と触れ合い世界の多様性を学ぶ～		
団体名	東大阪ペタンククラブ		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	196,561 円	総事業費	198,551 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>・うつ病(双極性障害)からの病気回復期にペタンクに触れた当事者(代表・高橋)として、ペタンクが体力向上に有効だと感じました。小学生から高齢者まで運動が苦手でもすぐに楽しむことが可能です。年齢・性別・体格・障害・国籍等の差異を超え楽しむことが出来、生涯にわたり取り組むことで市民の健康促進を目指します。</p> <p>・1910年フランス発祥のフランス語を用いるペタンクを通して日常に異文化と触れ合う環境を作り、英語や近隣アジア諸国以外の言語・文化の習得により多様性の獲得を目指します。</p>			
2. 事業の内容	<p>1. フランス文化講座&ペタンク体験講座 1 第1回東大阪ペタンクまつり / 2023年7月30日(日) ・場所：東大阪アリーナ会議室、八戸ノ里公園・参加人数 43名 2 第2回東大阪ペタンクまつり / 2023年9月24日(日) ・場所：花園中央公園防災広場、ひとつなぎカフェ・参加人数 28名</p> <p>2. ラグビー試合時のイベントにて、ペタンク体験及びパネル展示の出展 ・2024年1月14日(日)・場所：花園中央公園噴水広場・参加人数 70名</p> <p>3. 助成金活動以外での市からの支援によるペタンク体験の出展(2回) ・FC大阪試合前イベント6月(参加人数 約100名)・HANAZONO EXPO11月(参加人数 約200名)</p>			
3. 事業評価	① 実施時期(日時)はよかったか ② 実施場所はよかったか ③ プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか ④ 受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか ⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか ⑥ 企画・準備はうまくいったか ⑦ 広報はよかったか ⑧ 予算は妥当だったか	1 . <input checked="" type="checkbox"/> . 3 <input type="checkbox"/> ① . 2 . 3 <input type="checkbox"/> ① . 2 . 3 1 . 2 . <input checked="" type="checkbox"/> ③ 1 . <input checked="" type="checkbox"/> . 3 <input type="checkbox"/> ① . 2 . 3 1 . 2 . <input checked="" type="checkbox"/> ③ 1 . <input checked="" type="checkbox"/> . 3		
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>2度開催した「東大阪ペタンクまつり」は、企画内容は参加者に好評だったが、参加者を集める際に苦戦した。八戸ノ里小学校と協力店舗・出展でのチラシ配布、町内会掲示板等でのチラシ掲示などを行ったが、参加者の大半は友人・知人を通じた繋がりでの参加であった。原因は、ペタンクと東大阪ペタンククラブの知名度が低いことが一つ考えられる。一方で、出展では予想を上回る人たちにペタンク体験してもらうことが出来た。特に小学生はリピートで何度も参加してくれた。ペタンクやフランスを知ってもらうきっかけには有効であった。実施体制に関して、任意団体として立ち上げ1年目で中心になるスタッフも少なく不十分な点もあったが、各方面からの協力を得られたことにより無事に事業を終えることが出来た。</p>			

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>イベントの開催やペタンク体験の出展により、フランス発祥ペタンクを小さな子供から高齢者まで沢山のの人に笑顔で楽しみながら知ってもらうことが出来ました。これを機に東大阪ペタンククラブに加入し健康促進の為に継続的にペタンクを始められた方もいます。後日、副代表が別件で八戸ノ里小学校にて3年生向けに「フランスについて」授業を行った際、「フランスといえば？」という質問に過去イベント参加者の児童が挙手して元気に「ペタンク」と答えたそうです。新しい文化・知識を学んでいただいた成果の一つだと感じています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>ペタンクがマイナースポーツで認知度が低いため、チラシの配布だけではほとんど人が集められませんでした。普段の東大阪ペタンククラブの定期練習会での八戸ノ里公園におけるアピールやペタンク体験の出展等、東大阪ペタンクまつりを行う前のペタンクの認知度アップの活動が重要だと感じました。ペタンクがフランス発祥ということで興味を持ってくれた方も多かったため、今後さらにペタンクとフランス文化の発信を続けることで多様性を学ぶ機会を創出していければと思います。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

2024年度はイベント出展を最初から助成金活動に加え、幅広い年齢層を内包した積極的な世代間交流を目指す。ペタンクを通じた健康促進・文化的学習・交流コミュニティ構築といった複合的な目的を達成していくため、チラシ・出展による宣伝活動（ペタンクを使った簡単な遊びと交流＝導入）→本事業の主体であるペタンク&フランス文化体験会（健康促進・学び・交流の場）→希望者によるペタンククラブ参加（ペタンクを通じたコミュニティ構築による多様性の実現）の流れを確立していく。「東大阪ペタンクまつり」の参加者が、イベント後も継続し、各人の特性に応じてペタンクコミュニティに加入できる環境を整備することで、多様性を実現するコミュニティづくりを目指す。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

イベント出展と東大阪ペタンクまつりの実施により、ペタンクとフランス文化の普及が見込まれます。2023年度はペタンク体験者の個人の多様性の取得までが重点でした。しかし、東大阪ペタンククラブに令和5年度に加入してくれた高齢者の方々とペタンク活動の中で、他者の多様性を理解し合いながら継続的に活動を行っていくことが、参加者の心の豊かさや健康促進に直結すると実感しました。ペタンクという参加者同士の共通ツールを通じてコミュニティを構築することにより、障害の有無や年齢・性別等にかかわらず、お互いを理解し合えるまちづくりに繋がればよいと考えています。

財政面に関しては、出展での売上やイベント参加料、寄付金等で将来的な財政面の自立化を目指します。

令和 5 年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市内の各種「通いの場」ネットワークづくり事業		
団体名	東大阪「通いの場」連絡会		
助成区分	スタート支援 部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000 円	総事業費	203,164 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域共生社会の実現のためには「住民自身が主体的に動く」ことが必要です。すでに市内で活動されている子育て・障害者・高齢者すべてに関係する“通いの場”の繋がりをつくり、それぞれの“通いの場”の充実や新たな“通いの場”の創設を目指すとともに、市役所担当部局や関係機関の協力も得て、様々な取り組みを展開していくネットワークづくりを目指します。			
2. 事業の内容	1) 「(1)例会」「(2)イベント」「(3)公開例会」の開催 (1)…毎月-会員+非会員若干名で情報交換・イベント等の企画、(2)8/27・2/4開催、(3)12/17開催 2) 市内の「通いの場」および関係機関 100 数十か所に広報（郵送×6回） 3) 地域福祉ネットワーク推進会議への参加			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	第 1 回目の「イベント」は、把握していた関係先への広報は行えたが、内容についてはまったくの手探り状態であった。市外から講師を招いての「講演会」とグループワークを行ったが、講師の「市内の実践者に話をしてもらえば…」との助言を受けて、「公開例会」および第 2 回目の「イベント」は、広報で発表者を募って開催したところ、一定数の参加者があり好評であった。ただ、一部の参加者（地域でひっそりと運営されているところ）からは、「発表内容が先駆的すぎてついていけない」などの感想もあった。今後、企画内容や広報について配慮・工夫が必要である。なお、「地域福祉ネットワーク推進会議」については、東・中・西地域で開催された「会合」に会員が参加できたが、案内を頂戴できないことがあり、連携強化が必要である。			

※ 1～4 を 1 枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>会員数 27（個人 21・団体 6）と目標の 30 には届かなかったが、「例会」や「イベント」「公開例会」の開催、地域福祉ネットワーク推進会議への参加など、ネットワークづくりに向けて確かな手応えを感じることができた。特に、「イベント」は「つながろう『通いの場』大交流会」と称して 2 回開催、のべ 100 名ほどの個人や団体の参加をいただき、通いの場が抱える課題やイベントの進め方への助言など、有意義な意見交換や情報共有ができた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>「イベント」参加者からは「つながりの大切さを再認識、このようなイベントの開催や会の継続を希望する」などの感想が多くあった。一般的なチラシやポスターの掲示・配付といった広報の方法だけでは、なかなかそのことを伝えるのが難しい。会員の“口コミ”やホームページを活用しての広報が重要と考える。</p>

6. 活動内容がわかる写真



8/27 「イベント」の様子



2/4 「イベント」後の記念撮影

7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

目的が曖昧になっていた「会合」を、会員による「例会（主に運営についての検討、助成対象外）」、規模の大きな「イベント」と身近なところで誰もが参加できる小規模の「公開例会」の三つに分類することで、開催のねらいを明確化、誰もが関心の持てる「会合」を目指す。「通いの場」に関心のある方すべてに対して、人（メンバー）や東大阪市内のさまざまな団体（社会資源）をつなぐことで悩みを解消し、活発な活動、活発なまちづくりに寄与する。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

各種「会合」の開催を継続するとともに、関係者への広報活動や会員による新規会員獲得に向けた取り組みを積極的に行っていく。また、関係機関の繋がりである「地域福祉ネットワーク推進会議（東・中・西地域）」に積極的に参加、関係機関との連携に努めていく。会員数については、今年度中に 50、来年度までに 100 の確保を目指す。また、現在 1,000 円定額の年会費を一口 1,000 円×1 口以上にすることで増収を図り、財政面での自立を図っていく。

※ 5～9 を 1 枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ダブルケア当事者の居場所づくり事業		
団体名	ダブルケア東大阪		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	181,000 円	総事業費	189,686 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	子育てと家族の介護を同時に担う「ダブルケア」は、深刻な社会問題となりつつありますが、まだ認知度が低いのが現状です。当事者は家庭の問題として抱え込み、孤立する傾向にあります。本事業は、東大阪市の皆様へダブルケアの周知・啓発を進めるとともに、当事者の居場所づくりを行うことを目的とします。			
2. 事業の内容	周知・啓発パネル展を行い、ダブルケア家庭は地域での見守りや支援が必要であることを、沢山の方に知ってもらうことができました。 ダブルケアカフェを行うことで、当事者同士の交流や情報交換を行うことができました。第3回では京都府舞鶴市からダブルケアピアサポーターをお招きし「ダブルケアのハナシ」と題して、ご自身の体験や必要な支援についてお話していただきました。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	①	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	①適切な時期・希望者が参加しやすい日時で開催できたと思う ②参加希望者が足を運びやすい場所で開催できた ③事業目的に沿った内容で実施し、参加者にも好評だった ④意図した人たちであり計画通りの参加人数であったが、更に多くの方に周知する必要があると感じた ⑤協力者・協力機関は増えたが、車が必要な際などに人手を賄うのが課題だと感じた ⑥問題なく開催できた ⑦より多くのダブルケア当事者に伝える工夫が必要である ⑧妥当だったと思う			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>予定していた以上の成果があげられたと実感しています。事業実施に伴う広報活動やJ:COM「虹色ねっとわーく」での放送、HANAZONO EXPO2023への出展などを通して、多くの方にダブルケアを知ってもらうことができました。ダブルケアカフェには、協賛企業さんが参加者にプレゼントするお菓子を提供してくださいました。一般の方からのダブルケアカフェの見学希望が多く、第3回はどなたでも参加OKのイベントとなりました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>ダブルケアの概念を知って共感し、身近な問題として捉えてくださる方が沢山いたことが、予定していた以上の成果があげられた理由だと考えます。その方々がSNSや口コミなどで拡散してくれたり、当事者の力になりたいと申し出てくださったりしました。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続
<p>継続して実施する</p> <p>・</p> <p>実施しない</p>
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由
<p>周知・啓発パネル展は、のぼりや大きな看板など、通りすがりの人の目を引くようなアイテムを使用し、更に多くの方に閲覧していただけるよう工夫します。ダブルケアカフェは、夏休み中の開催は子連れでの参加者が多くなるため、前年度は急きょボランティアの方に託児をお願いする形となりましたが、令和6年度は前もって保育士を確保し、安心して参加してもらえるよう努めます。HANAZONO EXPO2023への出展で啓発への手ごたえを感じたため、ふれあい祭りへの出展にチャレンジします。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)
<p>事業を継続することで、協力者や連携機関が増えていきます。この方々が発信することにより、自分達だけではできない規模での周知・啓発や当事者への声かけができるようになっていきます。支援が必要だという声が大きくなれば、ダブルケア家庭の実態調査や相談窓口の設置が行われるなど、支援体制の整備にもつながると考えます。</p> <p>財政面では、他団体のイベントへの参加・出店での収益や、代表・荒井の講師活動や委員活動での収入、大学など研究機関への協力で得られる収入を資金に充てていく予定です。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	～学校に行きにくい児童生徒へいろいろな機会を与える～ はじめの一步！		
団体名	特定非営利活動法人フリースペース かの		
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	127,081円	総事業費	229,931円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	① 事業を実施する目的（解決したい地域課題・社会背景等） 全国の不登校児童生徒数が過去最高の約24万人を超えた。地区の小学校1校、中学校2校の校長、不登校担当者と話す機会を保護者との懇談会を利用し、学校に行きにくくなっている児童生徒（すこし問題を抱えている児童生徒や外国籍の児童生徒なども含め）に対して、案内する。また、学校へ登校できなくて悩んでいる児童生徒やその保護者に学校に行かなくても家庭で興味関心のあることを勉強したり、フリースクールに顔を出したり、いろいろな選択肢があることを知ってもらい、少しでも気持ちが楽になるようにする。			
	2. 事業の内容 学校へ行きにくい児童生徒や保護者を対象に、様々なワークショップを企画したり、自宅の1室を相談室兼学習室、カフェを週に一度開放し自由に過ごす場所を作る。興味のある事を見つけ、成功体験を積み重ね自分を認められるきっかけ作りをする。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
	② 実施場所はよかったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
	③ プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
	④ 受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
	⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3
	⑥ 企画・準備はうまくいったか	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
	⑦ 広報はよかったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
	⑧ 予算は妥当だったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	実施日時は、カフェに来ているお客さんや関係者をお願いしてワークショップを作っているの、その方々の日程に合わせている。 プログラムの内容については地域の人の得意な分野のワークショップを開催して、興味を示した不登校児童生徒が参加する形で、様々な内容を盛り込んだ。 広報については、大人数の募集ではないので地域の張り出しやインスタグラムでの募集で十分だった。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>毎週木曜日のフリースペースの利用においては、成果は上がっていない。カフェ営業中のフリースペース利用においては、登校を嫌がる園児と保護者が半日過ごしたり、中学生が勉強や相談に来たりして一定の成果はあった。</p> <p>それ以外では、フリースペースに相談に来た、高校生が自分の力で大学に合格したり、英語に興味を持った生徒とネパール高校生と2人旅を実施したりできた。</p> <p>また、地域の祭りへの参加依頼や他市の行事への参加依頼もあった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>フリースペース利用の成果が上がっていない理由は具体的な例をPRできていないので、どう使っているのかわからないことが一番だと思う。</p> <p>しかし、令和6年度の予約はすでに2件ある、1つはあるグループによる「職業体験」や個人による地域の老人とのコラボ企画「ふれあい喫茶」も予定している。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

・

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

助成金申請事業としては実施しないが、フリースペースかんの事業としては継続していく。

ワークショップ形式でいろいろな企画を実施したが、生徒の成長を考えると自分でやりたい講座を見つけて、依頼から実施までを自分の力でできるようにしていきたい。

また、自分のやりたいことをフリースペースかんで企画し、希望者を募集出来るようにしていく。

(お魚いっちゃん魚捌き教室やネパール高校生2人旅)

今年好評であった不登校児童生徒の保護者の会「かんのしゃべり場」は今後も実践していく。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域全員顔見知り（ご縁づくり）事業		
団体名	EN		
助成区分	スタート支援部門 （ <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 ）		
助成金額	200,000	総事業費	216,886

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>ライフスタイルの多様化により近隣住民をも知らないことが多く、コロナ禍により外出する機会が以前より更に減少した高齢者は、地域の中で孤立している。一方、両親共働きが一般化し児童の孤立も社会問題となっている。</p> <p>イベントを通して地域住民同士の顔見知りを増やす事で孤立を解消し、見守りあう環境作りを事業の目的とする。</p>			
2. 事業の内容	<p>世代間交流を目指し一緒に遊べるボードゲーム大会や、地元の商店や住民と共に協力のもと、朝市マルシェを開催。更に昔ながらの遊びを子供たちに伝える昔遊び会を開催。</p>			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	2	3
	②実施場所はよかったか	1	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2	3
	⑦広報はよかったか	1	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>開催時期・場所は適正であった。企画・準備する上でも特に問題なく行えた。イベントを行う上で地域の自治会との繋がりが必要であった。地域との繋がりを作って頂き、スムーズに企画を行う事ができた。</p> <p>不十分な点として朝市では地域の世代間交流が行えたかを考えると、地域の高齢者が関わる時間は少なかった。また広報も高齢者には紙媒体が主体で行っていたが、参加には至らず広報は不十分であった。昔遊び会に関しては普段よりも公園使用をする子供達が少なく、開催時期が不十分だった可能性がある。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>朝市イベントに関しては地域の JA さんの協力を得る事ができ、対象としていた高齢者の来場を多く得る事ができた。自分達だけでは集客できなかった年齢層に来て頂いた事で地域で活動している事を多くアピールする事ができた。昔遊び会では地域の方や近隣の施設の利用者様も遊びに来られ、一緒に交流する時間ができた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>元々 JAさんのイベントは定期開催されており、ほぼ来場者は高齢者であった。紙媒体の広報だけではなく JAさんの広報もあり、ターゲット層への広報へ繋がったと考える。昔遊び会では一部の地域でのみしか広報が出来ていたが、公園に来られた方の地域への広報ができていなかった。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する ・ 実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

今年度は事業内容が多くなり、開催するにあたって余裕を持つ事ができなかった。次年度は余裕をもって開催できるようにメインの企画を絞り開催に余裕をもつ。

地域の高齢者による関わりがもてなかった為、次年度は自治会の方へ協力を依頼し地域の高齢者と共に世代間交流が行える時間を提供する。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)

イベント開催に当たって必要な経費が多くあり、企業様の協力の元開催する事ができた。次年度も企業様の協力得て経費を分担し経済的な負担を軽減する。初めての開催であり、集客に対する不安が強く出店料は定額で開催した。今後開催時にかかった経費がマイナスにならない様に見合った出店料で計画し継続的な事業として成り立たつ事ができる様にしていく。

※ 5～9 を 1 枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子どもの夢を咲かせるバクプロジェクト		
団体名	ちいさなて		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000	総事業費	416,466

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	不登校児の増加や地域の繋がりの希薄化など地域課題解決には地域住民の理解と関心が必要だと感じます。子供が子供らしく、自分を表現できる場が学校でもなく家庭でもなく『ここに来れば安心』という場所が地域には必要であり、子供が親以外の大人に声を上げられる、個性や特性を認め大人が理解を深めていくために事業を行う。			
2. 事業の内容	子供達が楽しいと感じる遊びを通して、子供の興味関心を拾いながら福祉や防災、多様な価値観に触れるきっかけに繋がるイベントを企画しました。防災時に必要なライフラインを考えるきっかけとして車椅子でも入れるトイレを作ったり、落ちてるものでテントやトイレを作ったり、親子で楽しめるイベントを行いました。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	2	3
	②実施場所はよかったか	1	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2	3
	⑦広報はよかったか	1	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	5月・9月・11月・12月と暑すぎず寒すぎない気候で開催できたことで熱中症等に配慮できました。各イベントでは、専門職や専門機関との連携がとれたことで子供達が安全に配慮しながら様々なことをプロから教わる事が出来、興味関心に繋げることが出来ました。イベントの実行委員は『地域と福祉をつなぐ』必要性に理解を示す子育てママがチームとなり行ったので、横の繋がりがや意見交換、根拠など共通認識の中各イベントを行うことが出来ました。初めて協賛金を募ったりママたちにとってもチャレンジの機会になり、予算配分や広報等に関しては次回に反省点を活かしていきたいと思います。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>福祉用具で遊んでみたり、ゲーム性を持たせた防災ワークショップなど遊びの中から子供達が地域課題に触れていくのはもちろん、その子供の様子を見て大人が学び、考えるきっかけになりました。『遊び』『楽しい』を仕掛けていくことで、多くの人がなかなか関心ごとになりづらい地域課題について知り理解を深めたと感じます。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>福祉色を出さない、防災、不登校、障がいなど伝えたいテーマがあるからこそ、その直接的な文言や色は出さない工夫はしています。目的は『無関心から少しの関心へ』なので関心の無い人たちをいかにその場に足を運んでもらえるかということとはとてもこだわって企画は作っています。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続	
継続して実施する	・ 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由	
<p>次年度も引き続き、『地域と福祉をつなぐ、無関心を少しの関心に』をテーマに防災や福祉を盛り込んだ企画を子供達が遊びを通して学び、その子供の姿から大人が学び、理解に繋げるきっかけ作りを継続していきます。次年度はこのそれぞれの活動を『子ども新聞』という形で紙媒体として作成し、公的な施設や福祉機関、地域の人との出入りがある場所、また人の手から手へ防災や子ども食堂、在宅高齢者へ地域の情報を届け、ワークショップ～紙媒体～地域へ情報循環までの一連の流れに乗せたいと考えています。</p>	
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）	
<p>今後、事業の継続と自立に向けて子ども新聞にスポンサーを募り、作成印刷費用、手渡し配布してくれる子供含めた地域の方に1枚当たりの単価を乗せ協力者の継続的なサポート体制を仕組化したいと思えます。また子ども食堂の実施者や実施場所と連携をとることで新聞を1枚配ることで地域通貨を発行し、その通貨で子ども食堂のご飯が食べることが出来る、施されるのではない子ども食堂の仕組みも整えていきたいと考えます。</p>	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	みんなで考える「食」と「お金」		
団体名	ひのもと		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000円	総事業費	264,767円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	人は、「食」と「お金」を抜きにして生きていくことはできない。この「食」と「お金」に関するスキルの構築を目指す。このことにより、健康的で生活保護家庭の減少に貢献でき、何よりも自分の才能を生かし幸せな人生を歩める人が増えることは、東大阪市をより良い街にすることができると思う。			
2. 事業の内容	いただきます2映画上映会 ひのもと子宝マルシェ@若江 ひのもと子宝マルシェ@石切			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	・ 2	・ 3
	②実施場所はよかったか	①	・ 2	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	・ 2	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	・ 2	・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	①	・ 2	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	・ 2	・ 3
	⑦広報はよかったか	①	・ 2	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	①	・ 2	・ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	3つの事業において、当初予想していたよりも多くの方にご参加いただいた。また、多くの団体とともに開催することができるなど、地域とのつながりが深まった。集客的にも1回目300名、2回目500名、3回目1000名超と増えていき、ひのものの認知が高まってきたように感じている。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか 予定以上の成果があった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由 当初予定していた時よりも、多くの団体や企業が協賛・寄付などいただくことができた。地道に連絡を重ねたことと、運営メンバーが固定化されてきたことにより、安定して取り組むことができた。また、回を重ねる度に運営のノウハウを学び得ていくことができた。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

子宝マルシェを基本に取り組みを進める。その中で、大阪商業大学や近畿大学の学生、高校生も交えて取り組みを進めていきたい。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

子宝マルシェを基本として、イベントを企画・運営していく。企業や大学、高校との連携を行い、地域と繋がっていくことで、地域活性化の一躍を担う団体となる。財政面では、NPO法人などへの移行準備を整えていく。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	なんでもはなしてみよう会		
団体名	よりみち		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	166,010 円	総事業費	180,714 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	知的障がいをもつ若者は健常な若者に比べて人生の選択肢が少ない現状がある。と思う。高等学校卒業後は、障がいの区分に応じた事業所へ進むことが多い。同日利用できる福祉サービスが限られているため事業所と家の往復だけになってしまう障がい者が少なくない。まずは当事者が自分の思いを自由に発言し、本来もっている力に気づく場をつくる。			
2. 事業の内容	自由なおしゃべりの中から、自分を知る機会や他の当事者の状況を知る機会を得てもらい、自己実現に向けたきっかけづくりを行う場作りをした。スマホは触らない、ひとの話しを聞く、お喋りボール(リラックsgグッズ)を持っている人が喋ることができる、秘密をまもる、というルールを決め、存分に喋る体験と、しっかりと聞く体験を積むことができた。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期(日時)はよかったか	①	2	3
	② 実施場所はよかったか	1	②	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	2	③
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	安心して参加してもらえるように、どのような会なら参加しやすいかのききとりから始めた。当事者を中心に会議を重ね、当日はいきいきと自分の思いを表現する場をつくることができた。開催に向けた会議や振り返り会を重ねることで、当事者本人が、自分の意見を言うことや人前に立つことへの意欲が変わっていく姿もみることができた。ファシリテーターを依頼する方々とも、会の趣旨や目的を確認し合い、一定の共通認識がある上で行えるようにするなど、会については準備にしっかりと時間をかけるようにした。一方で、告知については周知するのが大変だった。SNS等を禁止されている当事者も多かった。チラシを何回か渡し、度毎に丁寧な説明を心がけた。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>知的障がいのある人たちがじっくりと話しを聞いてもらえる体験が少ない事実を知った。会議については、共通の理解ができているかを確認しながら進める必要があり、時間のかかる作業だった。しかし、おかげで、彼らが話しを聞いてもらえる場、気持ちを出出出来る場を必要としていることについて確証を得ることにもなった。また、成人を迎えた障がい者の家族が孤立している現実を知った。だれもが当事者という目線で地域とも繋がっていききたい。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>非言語の人達にとっても、気持ちを出出できる場となるようにしたいと思う。これは相当におおきなテーマでもある。様々な立場の人の意見を聞きながら、進めていききたいと思う。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

SNSでの告知は手軽さや広がりや早さがある一方で、障がい当事者は利用制限されている場合も多く、紙媒体での告知の必要性も感じた。そのため、郵送や事業所に出向くなどしての告知活動にも力を入れる。当事者に対しては紙媒体での告知や説明なども複数回に渡って行う。会場については、隣のグループのしゃべり声が干渉しない工夫を考える。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

だれもが当事者という目線で、孤立しがちな年代の親子と繋がりをつくっていく。なんでも話してみよう会開催後には、主に会に参加した当事者と、支援者を幅広く対象に報告会を行う。当事者の意見を共有することでニーズを知り、当事者がいきいきと暮らせるまちづくりにつなげていく。参加費を徴収し、協賛してくれる団体や、個人に積極的に呼びかけ、協賛金を募集する。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市障害者文化スポーツ大会		
団体名	東大阪市障害者文化スポーツ大会		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	127,377 円	総事業費	236,682 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市内にはふれあい祭り等、大規模な住民の交流イベントがあります。障害者の中には合理的配慮や支援者がいることで、そういったイベントにはじめて参加できる方がいます。当会は一人ひとりに配慮がしやすいようコンパクトなイベントを通年で実施し、障害者を含めた住民間の交流が増えることを目的としています。また、イベントを開催するだけでなく、一緒にイベントを作り、一緒に参加することで相互理解を深め、誰もが暮らしやすい東大阪市のまちづくりの一助になることを目的としています。			
2. 事業の内容	定期的にイベントを開催しています。 ボッチャ大会・運動会・凧揚げ大会といった体を動かすイベントや、創作物の展示会といった文化的なイベントを実施しています。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	②	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	①	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	参加者の障害特性に応じた細かな配慮を実施することで、普段外出を敬遠されている方にもご参加いただけました。 一方で地域の方に多数参加して頂けたイベントが、市役所22階をお借りして実施した展示会のみとなってしまった点が課題です。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>それぞれのイベントに約200名の方が参加してくださいました。イベントを重ねる毎に「こんにちは!」「また会いましたね!」等と事業所の垣根を超えた交流がありました。個人でも普段は外出を頑なに拒否される方が、こちらのイベントには「見に行きたい」「参加したい」と発信があり、実際にイベントにも参加できたという事がありました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>各イベントでのご利用者様への必要な配慮や楽しんで頂く為の工夫等について、月に一回実行委員のメンバーが集まって会議を実施しています。それぞれのイベントをただ実施するだけでなく、運動会やボッチャ大会では表彰状やメダルの授与、展示会では創作物のコンクールへの出品、凧揚げ大会では凧揚げの高さや凧のデザインを競うイベントを実施し、多数の方が楽しめる、また飽きが来ない工夫を行いました。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

今年度は障害をお持ちの方に無理なく楽しんで頂く為の地盤作りが中心になり、地域の方へのPRが足りなかったことが課題でした。

今後は当会の取り組みを広く認知して頂けるように、東大阪市内の住民、学校、障害福祉事業所等へのPRを強化していきます。(SNS、チラシ配布等)

当会のイベントだけでなくふれあい祭り等のイベントに参加し、当会の活動をPRしていきます。

各イベントへのボランティアの募集も進めていきます。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)

継続してイベントの開催や活動のPRを実施することで知名度を高めていき、当会に賛同いただけるスポンサーを募って持続可能な会となることを目標とします。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	トライアルしやすい商店街プロジェクト		
団体名	弥刀もりあげ隊		
助成区分	スタート支援部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	169,947円	総事業費	182,216円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域課題として挙げられている空家・空店舗問題、プレイヤーの高齢化に対して学生や商店会・地域で活躍されている方々、そして東大阪市空家対策課の方々と連携し空店舗を活用方法の検討から実施を行う。また、地域住民の方々がプレイヤーとして活躍できるようチャレンジしやすい商店街を作り上げることを目的とする。			
2. 事業の内容	<p>「弥刀もりあげ隊会議、弥刀癒しフェスタ、半額市・100 えん笑店街」：毎月第1土曜日（共同開催）→会議内にて商店街にある空店舗の活用方法の検討</p> <p>「弥刀れる市」：10月、11月、12月開催→軒先で使用する屋台4基の作成、「地藏盆祭り」：8月開催</p> <p>学生と商店街を繋ぐ新たなモビリティ活用のための整備、地域コミュニティネットワークの「見える化」</p>			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	①	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分になった理由 不十分だった理由	<p>①～⑧の評価で全体的に十分だったと感じた。会議日程においては弥刀癒しフェスタや半額市などと同じ日に行うことでその日のことや見えてきた課題等についてすぐ意見交換ができ良かった。またその課題を解決すべく新たに始められることを詰めていけた点は評価できた。プログラム内容や受益者に関して、「トライアルしやすい商店街」について会議で話し、空店舗の軒先での屋台イベントを開催することで地域の人たち以外の方たちの目にも留まる内容にできた。イベント開催時には商店街が人であふれるようになり、商店街を知らせるいいきっかけになった。広報においては弥刀もりあげ隊のインスタグラムでの発信や金岡本通商店街のブログ、地域の学校へのチラシを配っていただいたりといろいろな媒体を活用して周知させることができた。企画・準備や予算に関してだが、企画自体はうまくいった。しかし準備においてイベント開催のための道路占用許可の申請に時間がかかり開催の数日前になってしまったことが不十分だったと感じた。また予算に関して、広範囲にチラシを配りに行ったが来客者がチラシがポストになかったと言われたことがあり、チラシの費用を多く割り当てる必要があると感じた。</p>			

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>予定していた来場者の数は、最終開催では3倍強になった。また、チャレンジしやすい商店街として掲げていたがこちらからの出店者を募る形だったが、イベント開催時に地域の方からこんなことをやってみたいとお声がけしてもらえることが出てきたことは地域活性化に繋がると感じた。空店舗活用に関して取り組んでいたが頓挫してしまったものがあった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>上記の理由としては広報に力を入れたことが大きな要因として考えられる。また、イベント開催時にはアンケートなど来場者の方に話を聞く機会を設けていたこともひとつの要因であると考え。頓挫した計画については空店舗のオーナーの方が変わってしまったことや、主要な人物の不幸があったために頓挫せざるを得なかったというのが理由です。今後新たに活用できる空店舗があれば考える際に活用する。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続
<input checked="" type="radio"/> 継続して実施する • <input type="radio"/> 実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由
<p>事業を継続していくにあたってイベントの際に声を掛けていただけたことやアンケートの結果をもとに次年度のイベントの出店者を考え、地域の隠れた出店者を引き出し活性化をさせていく。夜間のイベントのため明るさ問題が挙げられているため照明等の配置を考え、雰囲気を壊さないレトロな商店街イベントを開催できるように企画する。キックボードについては新たなモビリティとして使用するための基盤の作成を行ったので、実際に使用して学生と商店街をつなぐために試行していく。</p>

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)
<p>中長期的にみると、次年度から開始する空家の活用方法の検討・実施において弥刀もりあげ隊として運営することになっている。そこで新しい事業体系を形成し持続的に進んでいくための基盤形成を十分に取る。弥刀もりあげ隊に参加している学生が年度が変わるとメンバーが変わってしまうという懸念に対して、参加している学生はゼミのプロジェクトとして参加しているため年度ごとにリーダーが更新されていくため、中長期的に続けていけると確信している。</p>

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	高次脳機能障害や若年性認知症の地域理解と当事者・家族の交流と社会参加促進事業		
団体名	社会資源開発研究会		
助成区分	事業チャレンジ部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	165,830 円	総事業費	272,900 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	制度や福祉の狭間に陥りやすい障害のある方に対して、地域における社会資源をつくり提供することによって、だれもがいきいきと活動できるまちをつくっていく。			
2. 事業の内容	①当事者が参加できる定期的な相談・交流会の実施 ②障害理解を目的とした啓発講演会を実施 ③地域のイベントに参加し、地域の理解や交流へとつなげる。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分になった理由 不十分だった理由	講演会の実施については3回であったものを2回の実施となる。その代わりとして、地域の市民とともに活動すること、地域に貢献していくことを目的に、花園エキスポでの出店やイコーラムフェスタにおける相談会の出店をおこなった。その点については評価できる。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>花園エキスポでの出店については、当事者の社会参加のきっかけとなることや、市民とふれあうことができる場の提供となり、大きな成果となったと考える。また、定期的実施している交流会でも当事者の参加が広がってきた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

・

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

活動が地域の中で定着してきたことが事業を継続しない理由の一つである。今後は自立して、運営していくことができると考える。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

財政面では地域のイベントに積極的に参加し、出店を通じて収入を得ていく。また交流会においても、コーヒー代として、500円を徴収し、運営費に充てていきたい。また、講演会についても、会員による講演など自前で行ってきたい。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ラグビーのまちでラグビーを「やってみる&やろう！」イベント		
団体名	NPO 法人リード		
助成区分	事業チャレンジ部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	325,740 円	総事業費	501,177 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	ラグビーのまち・スポーツのまち、ものづくりのまちである東大阪市。しかし、年少人口、生産年齢人口は一貫して減少し地域を支える担い手不足による地域力が衰退していくなど、まちの活力が失われて行くことが危惧されています。そして、これらの情勢を踏まえ、これからの日本の発展のためには、人々が深い絆で結ばれた地域社会が健在であり続けること、そして次の世代を担う青少年らの健全な育成及び人々が健康的な生活を送ることができる環境を作る必要があります。そのことから、東大阪市の市民を中心に、誰もが手軽にスポーツを楽しむことのできる場を築きあげ、青少年の育成、地域スポーツの発展に努めたいと考えております。幅広い人々が参加し、スポーツを親しみ、楽しむ、スポーツを軸とした多様なまちづくりの取り組みに貢献したいと考えております。			
2. 事業の内容	この事業では子供～大人と幅広い世代の人々が実際にラグビーを「やってみる」・「する」機会といったラグビーイベント会を創りたいと考えております。幅広い世代の人々がラグビーを楽しく「する」ことのできる新たなラグビーイベントとして人々が集まる活気あふれるまちの一つになれるよう取り組みたいです。			
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3
	②実施場所はよかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	<input checked="" type="radio"/> 2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	<input checked="" type="radio"/> 2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3
	⑦広報はよかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3
	⑧予算は妥当だったか	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	より地域の企業団体と連携をとり、大きな規模・広告が打てたのではないかと考えております。花園ラグビー場が利用できない中で利用ありきで計画してしまっていたので、利用できないパターンも想定して企画運営を事前に検討しておくべきだったと思いました。			

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>親子ラグビー教室は予定外に多くの参加者が見込めたこと。親御さんとお子様と一緒に参加することで盛り上がりも高く、楽しく良い会になりました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>幼児の部は市内の保育園・幼稚園にご協力いただきチラシの配布や掲示をしていただいたが、参加者が少なかった。ラグビーではハードルが高いので運動教室を入りにしたり、実際の教室風景がわかる映像をより多く出して「見える化」をして参加者の興味関心を引くことなどを行えば良かったかなと考えております。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続 実施する ・ 実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

地域の運動教室や他団体と連携して大きなイベントとなるように実施していきたい。そうすることでラグビーもでき、他競技もできてといった、より多くの運動経験を市民の方々に提供できるようなイベントを行っていきたいです。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

地域の企業様と連携して協賛のご協力をいただくなどの活動を行い、地域・企業・市民が交流、連携し良い街づくりとなるよう活動を実施していきたいです。

※ 5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	誰もが活躍できる多文化社会の実現に向けて		
団体名	特定非営利活動法人多言語・多文化サポート ICHI		
助成区分	事業チャレンジ部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	347,000 円	総事業費	542,580 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	「多様性と寛容性のある地域社会の形成」「社会参加の促進」「若者の参加」「オンライン活用」を目的とし、国籍に関わらず、多様な年齢層や地域の人が参加できるような環境を整え、多文化・多言語社会実感の機会、多様な形での社会参加の促進を図る。			
2. 事業の内容	高校生を含む若者の参加者を含む幅広い年代の市民と、多言語・多文化、ひいては「多様性と寛容性のある地域社会の形成」の重要性を共有する。また、これまでの知見と人脈を活かしオンラインイベントを実施し、時間や場所の制約がある方でも参加できる体制を整え、さらに多くの市民に外国人住民の言語や文化を知ってもらう。さらに、外国人住民の企画・運営側として参加できる機会も増やし、それぞれのできること、したいことを活かした「社会参加」できる場を設ける。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑦広報はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<ul style="list-style-type: none"> ・東大阪市に暮らす外国人住民の多言語・多文化を参加者に発信し、文字や料理をきっかけにお互いを知る時間を設けることができた。 ・オンラインイベントを実施し、新たな参加者と多言語・多文化の学びができた。また、他地域の日本語支援団体と意見交換することができた。 ・留学生や子どもの参加が増え、活動の幅が広がった。ICHI フェスでは子どもの参加も多く、大人も子ども・保護者も楽しめるイベントが開催できた。 ・イベントで使用する場所の確保と広報が難しく、参加者が直前まで不安定なイベントがあった。また、収益を得るための活動ができなかった。 ・高校に出向きワークショップを行ったが、継続的なつながりを生み出すことはできなかった。 			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多様性と寛容性のある地域社会の形成」を促進するために、Real ICHI CAFÉなど対面の交流を通してお互いを知る機会を積極的に設けた。ゲームや食事を共にする機会では自由な雰囲気でのコミュニケーションをとる機会となった。 ・留学生や外国人住民の参加、子どもの参加が増えたことから、ICHI フェスを開催した。ICHI フェスでは新たな層の参加者となることができた。 ・オンラインイベントでは遠方に暮らす方々にも参加してもらうことができた。オンラインイベントにも積極的に参加し、他地域の地域日本語支援の団体と活動内容を共有することができ、来年度の活動に有益な示唆を得た。
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場との長期的な連携の意識を共有できなかったため、引き続きイベントなどを周知し、若者にも魅力的な活動を展開させていきたい。 ・当初予定していた申請額から規模を縮小せざるを得なかったが、工夫してイベントを継続的に実施することができた。

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

本事業では地域住民が日本語教育や言語・生活支援の重要性への理解を深め、対話や体験的な学びにより異なる言語的文化的背景を持つ人々の視点も獲得しながら、多文化社会に暮らす当事者として地域で必要な支援を提供したり、活動に関わったりできる環境をつくる。そして、母語・母文化に関係なく一人一人の専門性や経験を踏まえた潜在的な力を発掘しながら活躍できる社会づくりをめざす。

(1)子どもも対象に 外国にルーツのある子どもは増加しており、子どもの多言語・多文化社会への理解を深めるために、子どもも対象としたイベントを実施する。**(2)対話で気づきを共有** 参加者同士が経験やイベントでの気づきを共有する振り返りの時間を新たに設け、多様な視点で共生社会を考える。**(3)研修・セミナー** 研修では、文化庁の日本語教育の位置付け・日本語教育と日本語支援の違い・各地の事例などを紹介し、地域日本語支援の必要性を周知する。また、外国人住民の方々にも生活について語っていただく機会を設ける。セミナーでは、お金や育児など生活情報に関して、やさしい日本語で生活に欠かせない情報を提供する。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)

- ・セミナー参加料の徴収を行い、継続的に活動できる資金を獲得する。
- ・各イベントの前後に団体案内紹介も引き続き行い、イベント参加者へサポート会員への勧誘も行う。
- ・教育機関の日本語教育関係者へ呼びかけ、それぞれの教育現場の状況や専門知識を共有しながら、多文化理解を深めるとともに課題を探り、解決を図る。
- ・「こくちーず」などのプラットフォームでも事業のイベントを告知し、東大阪市や近隣地域の日本語教育有資格者にもアプローチする。
- ・東大阪市で活動できる専門性を持っている参加者や会員を増やす。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和5年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ユメカナエフェス2023		
団体名	ユメカナエフェス実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000 円	総事業費	743,289 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	花園中央公園管理職員によると、公園では、飼い主のいない猫や、野生動物、ペットの散歩中の糞尿があり、現在、東大阪市のシンボルである花園の地が、清潔な状態とはいえないそうです。SDGs の目標 17「住み続けられるまちづくりを」においても、だれもが安全で使いやすい公共の場所作りを啓発することを目的とします。			
2. 事業の内容	① 動物チャリティー募金を実施し、東大阪市内外で活動中の動物愛護団体へ寄付。 ② 東大阪市民のステージ出演。 ③ 地域のキッズダンスグループの出演、市内外からのミュージシャンの出演 動物保護団体のバザーや、地域の方々のフリーマーケットの開催、食を通して交流できる空間作り。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	2	3
	②実施場所はよかったか	1	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2	3
	⑦広報はよかったか	1	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	① 天候に恵まれ、残暑はあったものの、熱中症者は出ることなく、無事終了することができました。②花園ラグビー場は広く周知されている場所でしたので、告知段階でも反応は良かったです。ただ、前日の雨の影響で水溜りがあり、所々場所を変更する必要がありました。また、雑草が茂っており、ステージが建てづらい、出店者のブルーシートが浮いてしまう等の障害がありました。③「動物愛護」1匹の保護犬の譲渡が成功。動物募金は約2万円集まりました。「自主性の啓発」ステージ出演をかけた東大阪市民・学生オーディション通過者からは、念願の花園中央公園で大きな舞台上に立てたという喜びの声をいただき、多方面から、来年度の出演希望の声をいただきました。「地域美化」開催前後に布施や花園にて清掃活動を実施。約10名の参加者と街をきれいにすることの大変さと大切さを学びました。また、花園での清掃活動では、ネット配信も行い、視聴者の意識改善に繋がりました。また、公園で犬の散歩をされている飼い主に向けての、マナー改善を目的とした発表を行いました。来場者が少なく、影響力はあまり感じ取れませんでした。その反省を生かし、来年度からは、実際にお聞きいただきたい、飼い主さんが聞きたくするような工夫を実施する必要があると感じました。⑥もちろん完璧にはいかず、反省点はたくさんありますが、人材や、資金、経験も少ない中で、ボランティアスタッフの皆様一人ひとり、気持ちを合わせて企画・準備のご協力をくださったという点では、その方々への感謝の気持ちを込めて、成功したとお伝えしたい気持ちです。⑦ポスティングや、チラシ配布、SNS、ネットラジオ、出演者からの広報も含めて、各界隈少しずつ反響があり、目標集客人数2000人を達成することができました。しかし、せっかく出店していただいたマルシェやキッチンカーの広報が薄かったため、反響はイマイチでした。⑧元々約60万円助成希望で計画していた予算案でしたので、20万円の助成金確定後、大幅に計画を変更いたしました。			

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>チャリティー目標募金額5万円のところで、残念ながら、半分以下の2万円という結果に。しかし、目標していた約2000人の集客人数は達成成功した。また、野生動物の里親を発見し、野生動物を減らすことにより、地域美化を目指す。という目標においては、実際に花園中央公園にいる野良猫たちをご存じの団体さんからの情報によると、なかなか捕獲できないとのことでしたので、結局のところ、団体さんが保護されている東大阪の保護猫の養育費の募金&そのためのバザーと、団体の広報活動がメインとなりました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>集客につきましては、ありがたいことに、東大阪で活動されているサッカーチームのFC大阪さんの試合が同時開催となり、コラボイベントもさせていただいておりましたので、ご協力のもと、目標人数2000人を達成することができました。また、地域美化のための清掃活動については、少ないながらもにしても、布施・花園で約10人で実施できました。来年度からは、参加者特典などを付け、よりたくさんの方々に知っていただきたいと思っております。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

継続していくにあたって、資金調達や、人材育成。そして、音楽をきっかけに来てくださった方をどうやって、地域美化や動物愛護をコンセプトとした発表等のコンテンツに促すか、というところが思慮するべき点です。試供品の配布や、動物愛護につながるようなゲーム体験など、ご来場者様の興味が出るような内容にする必要があると感じました。また、学生・東大阪市民オーディション枠については、応募数が少なかったため、学生や、東大阪市民の方々に届くように適切な方法で、募集チラシの配布や掲示を行う必要があると感じました。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

夢をもち行動するきっかけづくり、自主性の啓発というコンセプトと、動物愛護の二面性があるフェスト、東大阪市の地域活性化に向けて、地域の企業や団体さんと繋がっていくことにより、更に東大阪市の盛り上げに邁進いたします。また、それらを通じて活動していく事により、地域の人々の意識改革にも繋がることを信じて、まずは、実行委員会の確立、イベントのフォーマット形成。そして将来的には、実績・集客のあるフェスとなるように努め、出店料や協賛金、グッズの売り上げ等、収入が安定できるような仕組みづくりが完成したフェスを目指します。

